



美唄市

美唄市の中心部から車を10分ほど走らせると、山と川に囲まれた約7%の広い敷地が見えてきます。芝生がしげり、ときどき動物たちも来る自然の中、大理石や金属のブロンズで作った大きな彫刻がいくつも展示されているのは、「安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄」です。美唄出身で、イタリアを拠点に制作を続ける世界的な彫刻家の安田侃さん(81)らが1992年に開いた美術館を、こども記者2人が訪れました。(長谷川さち、写真も)

# 昔の学校 彫刻と自然調和

## こども記者見ぶん録



④彫刻や美術館について泉さん(左)から説明を聞く渋谷心琴さん(中央)と藤原統真さん(右)に展示された作品の管理を土谷さん(左)とや泉さん(右)から学ぶこども記者



「この作品には題名も解説も掲示していません。訪れた人の鑑賞の仕方、その時の気持ちによって印象が変わってくるはず」と泉さん。

### 安田侃美術館 毎日手入れ 大切な作品を守る

こども記者は岩見沢市・中央小5年の藤原統真さんと空知管内新十津川町・新十津川小5年の渋谷心琴さん。同館を運営するNPO法人「アルテピアッツァびばい」の泉沙希芸員(43)と、彫刻の保全や修復をする土谷あすか研究員(45)が案内してくれました。

敷地内や各施設は、だれでも無料で入れます。藤原さんが「入場料を取らず、どのように管理しているのですか？」と質問。泉さんが「施設に共感したり、大切に思ってくれたりする人の寄付などで運営していて、とてもめずらしい美術館なんです」と答えました。

「この作品には題名も解説も掲示していません。訪れた人の鑑賞の仕方、その時の気持ちによって印象が変わってくるはずです」と泉さん。

「この作品には題名も解説も掲示していません。訪れた人の鑑賞の仕方、その時の気持ちによって印象が変わってくるはずです」と泉さん。

### 大理石 けずってみがいて「楽しい」

美術館では月に1回、「こころを彫る授業」という彫刻の講座が開かれており、こども記者も挑戦。イタリアから取り寄せた白い大理石をハンマーやのみでけずり、やすりでみがきました。教えてくれたアルテピアッツァびばい職員の影山宏明さん(41)は「正解はなく、どんな形になってもよいのです。実際にほるのは大理石ですが、作業するときは自分自身と向き合いながら心の内面を表現してもらいます」と話しました。

30分ほどの短い時間でしたが、2人は真剣なまなざしで、もくもくと取り組みました。藤原さんは「体の向きを変えたりすると、ほりやすくなった」とコツをつかんだ様子。渋谷さんは「力の入れ方が難しかったけど、すごく楽しかった」と声をはずませました。



のみやハンマーを使って彫刻も体験しました